

花火大会検証会議 報告書

令和 6 年 12 月

目 次

はじめに	1
委員名簿等	2
1 検証会議の開催等経過	3
2 議論の経過	5
3 提案内容	18
おわりに	21

は じ め に

福知山市は、「花火大会のあり方を考える会」（以下、「考える会」という。）から提出された提言書を受けて、「花火大会に関する市の考え方」（以下、「市の考え方」という。）を令和 6 年 5 月に発表した。

その後、花火大会を主催する実行委員会から、市に対して後援申請があり、市は「市の考え方」に示す要件等を踏まえたうえで、令和 6 年 6 月に後援承認を行った。承認後、市は「市の考え方」に示している「実行委員会の会議に出席し、助言・指導を行う」、「警察署や消防署等の各関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行う」などの対応を行い、安全対策に関与した。

また、「市の考え方」において、花火大会終了後、安全対策の検証や経済効果の分析を行うこととしており、「花火大会検証会議」（以下、「検証会議」という。）が、花火大会の運営や事故防止対策等の検証のほか、経済波及効果の分析に関する事項等について協議を行い、その結果を市長に報告するための機関として、市により、令和 6 年 7 月に設置された。

「検証会議」を構成する委員は、雑踏警備等の安全対策や実施団体の責任体制等の専門知識を有する者をはじめ、法律の専門家、地域振興等に取り組む団体の代表者の 7 名である。

このような経過の中で、令和 6 年 8 月に「福知山 HANABI2024」（以下、「花火大会」という。）が開催された。

「検証会議」では、花火大会が安心安全に開催できていたのかを検証するため、花火大会当日に会場周辺において現地検証を実施した。現地検証後、実行委員会や関係機関等に対して確認事項の照会を行い、その回答内容や実行委員会から提出された事業報告書等を踏まえ、花火大会の運営や事故防止対策等が十分に機能していたか、改善すべき点はないかなどについて協議を行った。そのうえで、仮に今後も花火大会が開催されたとした場合、どのような形であるべきかという点についても協議を行った。

その結果をとりまとめ、本報告書のとおり報告する。

※「検証会議」で検証を行った「花火大会」とは、次の花火大会を指すものである。

□行催事名：福知山 HANABI2024

□開催日時：令和 6 年 8 月 11 日（日）

□開催場所：由良川（音無瀬橋）河畔

□主 催 者：福知山 HANABI 実行委員会

令和 6 年 12 月 26 日

花火大会検証会議

[委員名簿]

会 長	浦中	千佳央	[京都産業大学法学部教授（社会安全・警察学研究所所員）]
副会長	国松	治一	[弁護士 国松法律事務所]
委 員	水口	学	[福知山公立大学特任教授（地域防災研究センター長）]
委 員	足立	喜代美	[福知山市子ども・子育て会議委員]
委 員	谷垣	均	[福知山市自治会長運営委員連絡協議会会長]
委 員	樋口	真一	[福知山市商工会副会長]
委 員	横田	将吾	[一般社団法人福知山青年会議所理事長]

[事務局]

福知山市産業政策部産業観光課

1 検証会議の開催等経過

(1) 会議

第1回花火大会検証会議

日時：令和6年7月25日 13時30分～15時30分

場所：福知山市防災センター

主たる議題：検証会議の進め方等について

第2回花火大会検証会議

日時：令和6年8月11日 17時30分～21時00分

場所：福知山市厚生会館、花火大会会場周辺

主たる内容：現地検証

第3回花火大会検証会議

日時：令和6年8月29日 13時30分～15時00分

場所：福知山市厚生会館

主たる議題：現地検証結果のまとめ

第4回花火大会検証会議

日時：令和6年10月29日 13時30分～16時00分

場所：福知山市総合福祉会館

主たる議題：現地検証結果（案）の議論、花火大会の今後のあり方の議論

第5回花火大会検証会議

日時：令和6年11月19日 13時30分～15時30分

場所：京都府立中丹勤労者福祉会館

主たる議題：検証結果報告書（案）の検討、花火大会の今後のあり方の議論

第6回花火大会検証会議

日時：令和6年12月5日 13時30分～14時30分

場所：福知山市防災センター

主たる議題：検証結果報告書（案）の議論

(2) 会議以外の内容

①市民公募委員の募集

募集期間：令和6年7月26日～8月6日 応募者なし

②現地検証

実施日：令和6年8月11日

実施場所：福知山 HANABI2024 会場周辺

③経済波及効果分析

実施目的：アンケートと産業連関分析を通じて、花火大会の開催が地域経済等に与える経済波及効果を定量的に把握する。

分析機関：株式会社京都総研コンサルティング

④実行委員会への確認事項の照会

対象者：福知山 HANABI 実行委員会

確認事項：8項目

⑤市への確認事項の照会

対象者：福知山市

確認事項：1項目

⑥関係機関への確認事項の照会

対象者：福知山警察署、西日本旅客鉄道株式会社、携帯会社、露店出店者

確認事項：6項目

2 議論の経過

- (1) 花火大会が安心安全に開催できていたのかを検証するため、実行委員会が策定した実施計画書を踏まえてチェックシートを作成し、花火大会当日に現地検証を行った。

【現地検証方法】

①実施日

令和6年8月11日

②実施場所

福知山 HANABI2024 会場周辺

③チェック箇所

ア：各ゲート

イ：堤防天端

ウ：広小路通り

エ：御霊公園

オ：有料観覧席

④評価方法

チェック箇所ごとに設定した項目について3段階で評価

⑤評価基準

A：推 奨（問題なくできている）

B：標 準（可もなく不可もなく標準的にできている）

C：要改善（改善しなければ大きな問題になる可能性がある）

- (2) 現地検証を踏まえて、実行委員会や市、関係機関に対して確認すべき事項があると判断し、それぞれに照会を行った。

① 実行委員会への主な確認事項

確認事項	実行委員会のスタッフに対して、活動して良かった点、困った点を確認してほしい。
回答	◆活動して良かった点 ○ゲートでの受付や客席への案内、露店の営業時間に合わせたお客様の誘導、広小路通りでの駐輪や場所取りへの対応、打上げエリアでの徹底した散水、周辺を自転車で巡回して軒先営業しようとしているところへの迅速な声掛け等、どのエリアも大きな混乱やトラブルなく対応できていた。 ○警備計画書で、スタッフひとりひとりに番号を付けて地図に配置が落とし込まれていたため、スムーズにボランティアスタッフに説明できた。

	◆活動して困った点 ○エリアによってトランシーバーが届きにくい、届かないことがあった。 ○ベビーカーはゲートで預かる、客席での椅子の使用は禁止というルールだったがいくつかクレームがあったため、ベビーカーの持ち込みや妊婦等の椅子使用が可能な客席を設定してはどうか。
--	--

確認事項	警備員の配置場所により、警備する内容が異なる。場所によって警備方法が違おうと思うが、どのような研修をされたのか。
回答	○警備会社の責任者には、各配置場所での任務内容について説明を重ね、警察との協議の場にも出席して頂くことで、警備計画をしっかりと理解して頂いた。その上で、警備会社は我々よりも警備のプロであることから、警備員の配置や任務内容に応じた研修の実施は警備会社内で行ってもらった。

確認事項	花火大会後に被害者の方から何かご意見があったのか。
回答	○開催前は、コンタクトの取れた被害者の方から、花火大会の開催に賛成する旨の前向きなご意見を頂戴した。 ○また、当日ボランティアに参加された被害者の方が、来年はご主人（被害者）と参加したいと仰っていた。

② 市への確認事項

確認事項	花火大会後に被害者の方から何かご意見があったのか。
回答	○「市の考え方」では、実施後には必ず検証し、安心安全が確保され、規模を拡大しても問題ないと認められた場合のみ、段階的に規模を拡大するものと示しているので、次回開催で、いきなり以前の規模での実施ではなく、しっかりと段階を踏んで検証していただきたい。」と、ご家族の方からご意見があった。

③関係機関への主な確認事項

確認事項	実行委員会の事前指導についての感想。
関係機関	露店出店者
回答	○事前説明会や防火講習によって安全対策への意識が上がり、緊張感を持って営業できた。

確認事項	実際に露店を開店して気づいたこと。
関係機関	露店出店者
回答	○露店前のスペースが狭くて行列が密になっていた。会計と受け取りの2列になっている露店もあり、列が長くなるとどの列がどの店の列なのかがわかりづらく、並び直している人もいた。 ○営業の終了時間が19時40分ということを知らない来場者が多く、一斉に消灯した際に列に並んでいた人がやや混乱していた。

※実行委員会等への確認事項の詳細については、参考資料を参照

(3) 花火大会が「市の考え方」に示す条件を満たしていたかを確認した。

市は「市の考え方」に示す要件等を踏まえたうえで、実行委員会に対して、令和6年6月に後援承認を行った。承認後、市は「市の考え方」に示している「実行委員会の会議に出席し、助言・指導を行う」、「警察署や消防署等の各関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行う」などの対応を行い、安全対策に関与した。

検証会議では、花火大会が当初の実施計画から逸脱していたことはなかったか、また、「市の考え方」で示している要件等をしっかりと履行していたか否かを検証し、次のとおり判断した。

項目①	市の関与のあり方について
主な条件	警察署や消防署等の各関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行う。
検証会議の判断	市は実行委員会に後援を承認した後、実行委員会の会議や関係機関の会議への出席や現場立ち合いに同行するなど、必要な関与を行った。

項目②	主催者について
主な条件	万が一、事故があった場合に備えて、被害者対応のため、対人1名1億円以上の保険に加入していること。
検証会議の判断	実行委員会は万が一事故等が起きた場合に備えて、対人1名1億円の賠償責任保険等の保険に加入した。

項目③	花火大会の規模について
主な条件	花火大会の規模については、小さく始めることを条件とする。警備体制や交通規制の範囲や時間帯等については、開催規模に応じた対策が求められることから、具体的な発数、時間については予算規模や対応できる人員体制を踏まえて、本市を含めた各関係機関と十分な協議・調整を行い決定するものとする。当面は少なくとも周辺の自治体の規模を上回らないこと。
検証会議の判断	打ち揚げ発数は2,000発、打ち揚げ時間は20分間であり、周辺の自治体の規模を上回らない規模での開催であった。 また、警備体制や交通規制の範囲や時間帯等については、実行委員会は関係機関と協議を行い、市民や自治会、観覧者等に周知を図った。

項目④	安全確保対策について
主な条件	◆露店対策 由良川河川敷には、露店を出店させないこと。 ◆雑踏対策 事前に危険個所の点検を行い、重点的に安全対策を講じること。 ◆交通対策 警察署等の各関係機関と事前に協議を行い、交通混雑を抑制するために必要な道路使用許可等を受け、対策を講じること。 ◆救護対策 消防警備計画のほか、救護ブースに看護師等を配置するなど、万が一の事故等に備えること。 ◆火災対策 消防署等の各関係機関に必要な届出を行うほか、事前に協議を行い、指導を踏まえて、火災対策として必要な対策を講じること。 ◆自然災害等の対策 国土交通省等の各関係機関と事前に協議を行い、指導を踏まえて、降雨や増水、強風時などの中止等を判断する基準を予め決めておき、誰が、どのように対応を判断するかを明確にすること。

	そして、その他突発的な災害が発生することも想定して対策を講じること。
検証会議の判断	実行委員会は各対策について、主に次の対策を講じた。 ◆露店対策 露店は御霊公園のみ出店しており、由良川河川敷での出店はなかった。 ◆雑踏対策 事前に危険個所の点検を行い、関係機関等と現場で調整を重ね、安全対策を講じた。 ◆交通対策 警察署等の各関係機関と事前に協議を行い、交通混雑を抑制するために必要な道路使用許可等を受け、マイカーでの来場を避けるよう呼びかけるなど、必要な対策を講じた。 ◆救護対策 救護ブースに医師、看護師等を配置するなど、万が一の事故等に備えた。 ◆火災対策 消防署等の各関係機関に必要な届出を行ったほか、事前に協議を行い、打ち揚げ現場での草刈りや散水のほか、露店出店者に対して、事前に安全指導を実施した。 ◆自然災害等の対策 国土交通省等の各関係機関と事前に協議を行い、指導を踏まえて、降雨や増水、強風時などの中止等を判断する基準を予め決めていた。また、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことを受けて、運営本部で対応を確認した。

(4) 実行委員会への確認事項の照会とあわせ、花火大会の開催結果報告を書面にて受けた。

①来場者数

12,000 人 (延べ人数)

<内訳>

有料観覧席 3,000 人

御霊公園 4,000 人

広小路周辺 5,000 人

②臨時駐車場の利用台数

197 台

③チケットの販売数（販売率）

シート：164/164（100%）

階段席：969/975（99.4%）

④露店

営業時間：14時00分～19時40分

ブース数：15ブース（13店舗）

総売り上げ：347万円

1店舗平均：約27万円

⑤アンケート

回答数：461

（５）アンケートと産業連関分析を通じて、花火大会の開催が地域経済等に与える経済波及効果を定量的に把握することを目的に、経済波及効果分析を実施した。

① 観覧者数の推計

福知山市内 8,974人

福知山市外 3,026人

② 経済波及効果の推計

ア 観覧者の経済波及効果の推計

2,150万円

イ 実行委員会の支出による経済波及効果の推計

2,710万円

ウ 花火大会の経済波及効果の推計

4,860万円（ア＋イ）

実行委員会と共同で実施したアンケートに基づいて、専門機関が分析した結果、花火大会の経済波及効果は4,860万円であった。金額の多寡については、検証会議が判断するものではないが、令和5年度に市が実施した市民アンケートにおいて、花火大会の開催に賛成する理由で「地域経済の活性化」が2番目に多かったことを考えると、11年間ぶりに花火大会が開催されたことは、地域経済にとって大きなものであったと推測する。

※経済波及効果分析の詳細については、参考資料を参照

- (6) 現地検証、実行委員会等への確認事項の照会結果などを踏まえて、花火大会が安心安全に開催できていたのか、という点について議論を行い、次の結論を得た。

結論：事故や大きな混乱もなく花火大会が終了したことは評価できる。ただ、改善を要する点もある。

上記のように判断した理由

- 1 露店に起因する事故、雑踏事故、緊急事態発生など、大きな混乱がなく花火大会が終了したこと。
- 2 現地検証結果において、「C」評価（要改善）が指摘された箇所があること。
「B」評価（標準）であってもいくつかの改善点が指摘されていること。
- 3 実行委員会のスタッフから改善点の提案があること。
- 4 来場者アンケートにおいて、好意的な意見が多く、花火大会観覧者が評価していること。ただし、有料観覧席のあり方や露店等に対して改善を求める意見があること。

花火大会当日、全委員が出席して現地にて検証を行った。チェック箇所は、各ゲート、堤防天端、広小路通り、御霊公園、有料観覧席の5箇所。チェック箇所ごとに設定した項目について、「A（推奨）・B（標準）・C（要改善）」の3段階で評価し、議論を行ったうえで、最終的な全体の評価付けを行った。結果は次のとおり。

チェック箇所	各ゲート
全体評価	B（標準）
総評	ゲートを4箇所設けて、シート席ごとに入退場のゲートを指定したことにより、混乱なくスムーズな対応ができていた。花火大会が終了し、観覧者が一斉に移動する退場時には、ブロックごとにスタッフが案内して移動を促したことで、雑踏事故につながるような危険は生じなかった。会場アナウンスが聞き取りやすくて的確であったことは評価する意見がある一方、ゲート1、4では音量が小さくアナウンスが聞こえにくかったとの指摘があった。 また、場所によっては全体のタイムスケジュールを把握していないゲート責任者がいたことは課題であり、改善する必要がある。

個別意見	◆良かった点として、主に ・聞き取りやすいアナウンスだった ・スタッフがポイントごとに配置され、安全対策が行われていた ・ブロックごとの退場を丁寧にされていた ◆悪かった点として、主に ・ゲート責任者はシナリオを把握していない様子だった ・ロープがたるんでいて、意味がないところがあった ・順次退出のアナウンスがされていたが、間が空きすぎているなどの意見が出された。
------	---

チェック箇所	堤防天端
全体評価	B（標準）
総評	入場時は観覧者の来場時間に差があったため混雑はなく、チケットに関してのトラブルは見受けられなかった。しかし、チケットチェックの有無がわかりにくく、そのまま入れそうな雰囲気もあったとの指摘があり、改善が必要である。また、委員からは、堤防天端の指定された場所に警備員などを配置することも必要だが、巡回する警備員もいた方が良いのではないかと意見があった。
個別意見	◆良かった点として、主に ・入場は時間差があったので、混雑はなかった ・チケットに関してのトラブルは見受けられなかった ◆悪かった点として、主に ・堤防天端にいる一部のスタッフ、警備員も花火に見入っており、本来の業務をしていなかった。 ・チケットチェックの有無がわかりにくい。そのまま入れそうな雰囲気もあった などの意見が出された。

チェック箇所	広小路通り
全体評価	B（標準）
総評	広小路通りから堤防天端に向かう交差点でチケットの確認を行い、混雑を防ぐことができおり、交通整理は特に問題がなかったと考える。 しかし、交差点付近は有料観覧者以外の多数の観覧者であふれており、その点の対策は必要である。今回の花火大会では、交差点をバリケードで囲い、緊急車両の走行ルートを確保することができていた。安心安全な花火大会の開催のために、緊急事態に備えること

	は主催者として当然のことであることから、引き続き対応を求める。
個別意見	◆良かった点として、主に ・交差点でチケットの確認はされていて、混雑は防げたと思う ・浅草屋前に行列ができていた。交通規制中は厚生会館前まで行列ができていたが、交通規制の解除前に警備員の指導によるものか分からないが、行列がきちんと広小路側方向に行くようになり、交通の妨げにならないようになっていた ◆悪かった点として、主に ・緊急車両用に交差点を確保されていたので、歩行者が通る道が狭かったと思う ・一部店舗敷地内での着座と飲食が見られた。道路縁石での着座は混雑すると危険を伴うと思う などの意見が出された。

チェック箇所	御霊公園
全体評価	C (要改善)
総評	露店が出店していた御霊公園は、各店舗に長い列ができており、公園内は身動きがとれないほど多くの人々が密集していた。実行委員会の報告書によると、露店出店者から、「露店前のスペースが狭くて行列が密になっていた。会計と受取りの2列になっている露店もあり、列が長くなると、どの列がどの店の何の列なのかわかりづらく、並びなおしている人もいた。事故防止や混雑緩和の対策として、行列整理のスタッフを増員する、露店と露店の間隔を空ける、打ち揚げ中も営業して営業時間を長くするなどを検討してはどうか」と具体的な意見が寄せられている。 店舗数を15店舗に限定したことが良かったのか、公園内中央に集中した露店の配置方法が良かったのかなど、露店については、実行委員会だけで決定するのではなく、露店出店者や関係機関とも事前に十分な調整を行うことを求める。
個別意見	◆良かった点として、主に ・全時間帯を通して、ゴミは分別されていて、きちんと捨てられていた ◆悪かった点として、主に ・ゴミは散乱していなかったのですが、適切な配置数と思われるが、人が多くてゴミ箱がどこにあるのかわからない状況であった ・両側に露店を配置して密集を防ぐほうがいいのか、人の導線など検討が必要である。警備員、スタッフの配置人員が少ないのか、

	また、本来の業務をしていないのか、できなかったのか検証が必要だと思う などの意見が出された。 ◆その他のチェック項目として、 ・御霊公園内の遊具の夜間利用は事故の要因となることから規制をかけることが大切だと思う との意見が出された。
--	--

チェック箇所	有料観覧席
全体評価	B (標準)
総評	照明とトイレについてチェックを行った。照明については、打ち揚げ開始時には暗かったが、席には明かりがあり、特に問題はなかった。ゲート1へ向かう通道の暗い場所にスタッフが立ち、ライトアップを行っていた。また、足元に注意する旨のアナウンスや誘導があったことは良かった点である。 トイレについては、照明が設置されておらず観覧者が困っていたこと、手洗い場がなかったことは問題であり、改善が必要である。
個別意見	◆良かった点として、主に ・ゲート4付近は長蛇の列になるようなことはなかった ・ゲート1へ向かう通道の暗い所にスタッフが立ち、ライトアップされていた ◆悪かった点として、主に ・トイレ内に照明がなく困られていた。携帯のライトで光らせながら使用されており、スタッフの方に確認しても対応がなかった ・堤防沿いにも照明を置いた方が足元を照らすことができると思った などの意見が出された。

チェック箇所	その他
チェック項目	当日気付いた点
総評	事前に設定していたチェック項目以外に、当日委員が気付いた点を挙げた。有料観覧席にゴミがなくマナーが良かったこと、弁当付きチケット購入者の弁当引き換え店舗が一か所しかなかったため、行列ができ、通行の妨げになっていたことなどの意見が出された。 また、家族連れ、特にお子様連れが多く見られたことから、有料観覧席に「子育て支援席」のような席を設けて、入退場がしやすい場所を優先的に配分し、環境を整えるといった提案があった。

個別意見	◆良かった点として、主に ・堤防に観客を入れないことで、有料観覧席と有料観覧席以外の線引きがきれいにできた。 ・有料観覧席にはゴミが散乱していなかったのでマナーがとていいと感じた。 ・堤防ではボランティアスタッフ、警察官の存在もトラブル回避に役立ったと思う。 ◆悪かった点として、主に ・弁当付きチケット購入者の弁当引き換え店舗が一か所しかなかったため、行列ができ、通行の妨げになっていた。 ・ゲートのチケットのチェックをする受付にライトが準備していなかったようで急遽調達したようなものでしのいでいた。 ◆その他、所見として ・来年度から有料観覧席に加え、チケットなし観客席が増加した場合、その観客をどこへ誘導するかが問題になると考える。 ・家族連れ、特にお子様連れが多くみられた。ベビーカーを引いた人も多く見受けられたので、来年度は有料観覧席に「子育て支援席」みたいな席を設けて、入退場がしやすい場所を優先的に配分し、環境を整えることを提案する。 などの意見が出された。
------	--

※現地検証の詳細については、参考資料を参照

現地検証結果等のまとめ

各ゲート、堤防天端、広小路通り、有料観覧席は「B」評価、露店が出店していた御霊公園は「C」評価という結果になった。

平成 25 年の事故当時と状況が違うとはいえ、同じ場所である由良川河川敷において 11 年ぶりに開催された花火大会が事故や大きな混乱もなく終了したことは、評価すべき点である。指定エリアごとに退場を促し、観覧者が滞留することなくスムーズに移動したこと、雑踏事故防止の一環で有料観覧者以外の堤防天端への立ち入りを制限したことなど、安心安全を最優先にして講じていた対策は、今後の花火大会においても当然継続することを求める。

「B」評価を付けた各ゲート、堤防天端、広小路通り、有料観覧席については、良かった点もあったが、悪かった点については改善の余地があるため、再度検討することを求める。

「C」評価を付けた御霊公園については、多くの委員から身動きがとれないほど多くの人が密集していたことに対して問題視する意見があったことから、露店の出店数、配置方法などについて、実行委員会だけで決定するのではなく、露店出店者や関係機関と

も事前に十分な調整を行うことを求める。

また、実行委員会のスタッフから改善点が挙げられていること、来場者アンケートでは好意的な意見が多い一方で、有料観覧席や露店等に対して改善を求める意見があることから、それらの意見を十分検証することが必要である。

(7) 仮に今後も花火大会が開催されるとした場合、どのような形であるべきか。

第4回会議及び第5回会議において、以下のとおり、仮に今後も花火大会が開催されるとした場合のあり方について議論するとともに、それを踏まえて検討項目ごとに必要な対応を協議し、18ページ以降のとおり、提案を行うことにした。

ア 花火大会の規模について

段階的に規模を拡大することを容認するという点については、委員間において異論は出なかった。しかしながら、規模については安心安全を確保できる範囲において主催者が決定すべきであり、検証会議として具体的な発数や時間等について提示することは適当ではないとの意見が大勢を占めた。

今回の花火大会で明らかになった課題を改善することは当然だが、関係機関と調整を行い、安心安全が確保されるのであれば、段階的に規模を拡大することを容認するというのが「検証会議」の意見である。

イ 福知山市の関与について

市は今回の花火大会に「市の考え方」に示す要件等を踏まえたうえで、後援承認を行い、関係機関との事故防止対策等にかかる事前協議に出席し、必要な調整を行うなどの対応を行い、安全対策に関与した。公益性、法令や行政機関の役割に関する高度な知識を有する市の関わりは、花火大会の開催にあたっては必要不可欠なものである。

委員からは、「引き続き、後援でよいのではないか」、「検証会議で検討するというよりも、今後どのように関わるかは市が考えるべき」、「後援や共催という形式の議論ではなく、今以上に積極的に関わり、最終的には実行委員会と協議をすればよいのではないか」、「継続して花火大会を開催するためには、共催を検討していくべき」など、様々な意見が出された。

それらの意見を踏まえて、「検証会議」として18ページの「市の関わり方」の項目において、市の関わり方について提案をまとめた。

ウ 安全対策等について

議論の経過（６）では、「事故や大きな混乱もなく花火大会が終了したことは評価できる。ただ、改善を要する点もある」と結論付けている。現地検証結果において、委員から改善点が指摘されているほか、実行委員会のスタッフの振り返りや来場者アンケートにおいても、有料観覧席や露店等について改善を求める意見があることは重く受け止めなければならない。

実行委員会は「市の考え方」で示している要件等を確実に履行していた。しかし、予想を上回る来場者があったことから、露店が出店していた御霊公園は非常に混雑していたため、全委員から改善を求める意見が出された。また、公園の遊具の夜間利用という花火大会とは直接関係のない問題点も明るみになった。その他、「広小路通りから堤防天端に向かう交差点は、チケット購入者以外の多くの来場者が押し寄せていたため、何らかの対策が必要である」、「トイレ内に照明がなく、手洗い場もなかったことは問題である」などの意見が出された。

今後、規模が段階的に拡大された場合、より一層の安全対策が要求されるものである。一部の委員からは、猪崎地区における観覧者の混雑が指摘されており、今後、規模が拡大された場合、御霊公園、広小路通りだけでなく、総合的な人の流れを検討しなければならない。

一方、「聞き取りやすいアナウンスだった」、「混乱なくスムーズに退場できていた」、「堤防に観覧者を入れないことで有料観覧席と有料観覧席以外の線引きがきれいになっていていた」など、評価するポイントもあった。

以上の意見交換を行うなかで、①花火大会の規模について、②市の関わり方について、③有料観覧席について、④露店について、⑤堤防天端のチケット所有者以外の立ち入りについて、⑥広小路通りから堤防天端に向かう交差点での雑踏について、⑦広小路通りでの観覧者と歩行者の整理について、の７項目について提案を行うことにした。

3 提案内容

(1) 花火大会の規模について

提案 1－1：検証会議が挙げた課題のほか、実行委員会の事業報告書や来場者アンケートから明らかになった課題を十分検証し、関係機関と調整を図ること。

提案 1－2：安心安全な花火大会の開催が確保されるのであれば、段階的に規模を拡大してもよいと考える。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 検証会議等が挙げた課題を十分検証し、関係機関と調整を図ること
- ② 安心安全な花火大会の開催が前提で、これを実現させるために、実行委員会が安心安全を担保できる体制を整え、主催者、市、関係機関で協議し、規模（発数や時間等）を決定すること
- ③ 来場者アンケートから安心安全に関する記述を抽出して、分析し、安全な運営に役立てること
- ④ 規模を拡大する場合であっても、直ちに平成 25 年と同規模で開催するのではなく、段階的に拡大すること
- ⑤ 規模の拡大に伴い、観覧者の増加が見込まれるので、雑踏対策は十分に行うこと

(2) 市の関わり方について

提案 2：市、主催者、関係機関で協議して決定すること。

市は、主に以下のような対応を行うこと

- ① 委員から、「引き続き、後援でよいのではないか」、「検証会議で検討するというよりも、今後どのように関わるかは市が考えるべき」など、様々な意見があったことから、市の関わり方については、主催者の意見も踏まえて、関係機関等で協議して決定すること

(3) 有料観覧席について

提案 3－1：雑踏対策等の観点から有料観覧席は継続するべきである。

提案 3－2：来場者アンケートでは、有料観覧席について改善を求める意見があったことから、その内容を十分検証し、必要な対応を行うこと。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 事前に来場者数が予測できるなど、雑踏対策等の観点から有料観覧席を設けるこ

とは有効な対策であることから、継続すべきである

- ② しかしながら、来場者アンケートでは、有料観覧席について改善を求める意見があったことから、その内容を十分検証し、必要な対応を行うこと
(例) 有料観覧席の環境整備 (照明等)、有料観覧席の場所の設定

(4) 露店について

提案４－１：安全対策や雑踏対策を徹底したうえで、混雑解消のために必要な対策を講じること。

提案４－２：指摘を受けた課題を十分検証し、必要な対策を講じること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 事前・事後指導を確実に実施するため、引き続き、出店は市内事業者に限定すること
- ② 引き続き、火気はIHと炭に限定することが望ましい
- ③ 混雑解消のため、露店の出店数、出店場所、配置方法等については、御霊公園だけではなく他のエリアに分散させることも含めて関係機関と協議し決定すること
- ④ その他、衛生対策も含めて、考え得る対策を検討し、安全対策や雑踏対策を徹底すること

(5) 堤防天端のチケット所有者以外の立ち入りについて

提案５：雑踏対策等の観点から、原則、堤防天端への立ち入りは制限すること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 緊急時の関係車両進入、避難通路確保、雑踏対策等の観点から堤防天端への立ち入りを制限することは必要な対策であることから、継続すべきである
- ② 堤防天端に出て花火を観賞することをなるべく控えていただくよう、堤防天端沿いの住民に理解を求めること
必要であれば、花火大会計画準備段階の早期において、自治会等との話し合いの場を設けること

(6) 広小路通りから堤防天端に向かう交差点での雑踏について

提案６－１：関係機関と調整し、緊急車両の走行ルートを確保すること。

提案６－２：交差点付近の雑踏を解消するため、関係機関と調整し、必要な対策を講じること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 緊急車両の走行ルートは必ず確保すること
- ② 交差点付近は観覧者が最も密集するエリアのため、関係機関と十分調整を行い、混雑解消を図ること

(7) 広小路通りでの観覧者と歩行者の整理について

提案7：観覧者と歩行者を整理するため、関係機関と協議し、必要な対策を講じること。

主催者に対して、主に以下のような対応を求める

- ① 広小路通りでの混乱はなかったが、雑踏対策の観点から花火大会の観覧者と歩行者を時間や場所などで分けるなど、関係機関と協議を行い、必要な対策を講じること
- ② 来場者が一部のエリアに集中しないよう対策を講じること

お わ り に

検証会議では、花火大会開催に関して、福知山市の対応、主催者である実行委員会の花火大会の運営や事故防止対策等が、「花火大会のあり方を考える会」の提言を尊重し、十分に機能していたか、改善すべき点はないかなどについて、現地検証や実行委員会、市、関係機関への確認事項等を踏まえて協議を行った。当協議に基づき、仮に今後も花火大会が開催されるとした場合のあり方について、7項目の提案を行った。

平成 25 年の事故当時と状況が違うとはいえ、同じ場所である由良川河川敷において 11 年ぶりに開催された花火大会は、延べ人数で 12,000 人の観覧者を数え、事故や大きな混乱もなく終了した。この点を鑑みると、事故を教訓に、主催者、スタッフ、警察署・消防署などの関係機関並びに観覧者の大部分である福知山市民が一丸となって、二度と事故を起こさせないため、細心の注意を払い、万全の準備を以て、本年の花火大会に臨んだことは評価すべきであると考えます。

しかし、全国的に花火大会の開催をめぐる状況は、人手不足、諸経費の高騰などで年々厳しくなっている。また、現地検証では、露店が出店していた御霊公園は改善が必要である「C」評価とし、来年以降の開催に関しての課題を提示しており、今後も露店の出店を同公園で行うのであれば、来場者の安全を確保するため、露店出店者や関係機関等と十分な調整を行ったうえでさらなる対策を求めることになる。

本報告の 7 項目の要件を満たせば、今後も安心安全な花火大会の開催が自動的に保障されるものではない。公益性、法令や行政機関の役割に関する高度な知識を有する市の関わりは、花火大会の開催にあたっては必要不可欠なものである。市の関わり方については、「引き続き、後援でよいのではないか」、「検証会議で検討するというよりも、今後どのように関わるかは市が考えるべき」など、様々な意見があったことから、主催者の意見も踏まえて、関係機関等で協議し、決定することが望ましい。

さらに補足すれば、本花火大会の主人公は福知山市民であり、市民も積極的な意見表明を行い、絶えず花火大会に関し議論を行うことも重要であると考えます。

安心安全な花火大会を開催することが大前提であることは言うまでもなく、引き続き、安全確保体制の強化、万一事故が起こった場合の緊急体制・補償体制の確保は強く求める。

令和 6 年 7 月に第 1 回会議を開催し、それから 5 ヶ月をかけ、専門家、地域、商工関係者の代表が、公開の場での会議や現地検証等を踏まえて、本報告書をまとめることができたことは、非常に重要なことである。本報告書の市長への提出を以て、「検証会議」の役目を終えることになるが、本報告書が花火大会のさらなる安心安全な開催への一助となることを期待する。